

平成21年度病害虫発生予察注意報第6号

平成22年3月16日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

オオムギうどんこ病及び網斑病の発生が多くなっています。今後の気温の上昇とともに本病の発生はさらに増加することが見込まれ、登熟への影響が懸念されます。被害を防ぐために、防除を徹底しましょう。

病害虫名：オオムギうどんこ病、オオムギ網斑病

- 1 対象作物 オオムギ
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生量 多い
- 4 注意報発令の根拠

(1) うどんこ病

- ア 3月12日現在、発生ほ場率は64.3%（平年：13.1%）、平均発病茎率は16.6%（平年：2.1%）と平年に比べて高く、発生が広範囲に広がっている。現在、下位葉の発生が主体であるが、一部のほ場では上位第2～3葉への病勢進展が認められている。
- イ オオムギの生育については、全体的に茎数がやや多く、過繁茂ほ場も散在しており、本病が発生しやすい状態となっている。
- ウ 3月12日発表の向こう1か月の気象予報によると、気温は平年並または高く、降水量は平年並と予想されていることから、今後も本病の発生しやすい条件で経過すると予想される。

(2) 網斑病

- ア 3月12日現在、発生ほ場率は78.6%（平年：41.6%）、平均発病茎率は8.5%（平年：1.4%）と平年に比べて高く、発生が広範囲に広がっている。現在、下位葉の発生が主体であるが、一部のほ場では上位第2～3葉への病勢進展が認められている。
- イ オオムギの生育については、全体的に茎数がやや多く、過繁茂ほ場も散在しており、本病が発生しやすい状態となっている。
- ウ 3月12日発表の向こう1か月の気象予報によると、気温は平年並または高く、降水量は平年並と予想されていることから、今後も本病の発生しやすい条件で経過すると予想される。

5 防除上注意すべき事項

(1) うどんこ病

- ア 本病の発生が上位葉、穂に拡大すると、登熟に影響し減収・品質低下を引き起こすことから、多発生が予想されるほ場では、防除を徹底する。
- イ オオムギの葉色が濃い過繁茂のほ場では、多発生する恐れがあるので、注意が必要である。

- ウ 病気が蔓延する前に薬剤防除を行う。また、発生が多く、病勢進展が止まらない場合は、追加防除が必要である。防除薬剤は、チルト乳剤25(2,000~3,000倍、展着剤加用)、シルバキュアフロアブル(2,000倍、展着剤加用)、スミトップM粉剤(4kg/10a)、トップジンM水和剤(2,000倍、展着剤加用)などである。
- エ 農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。

(2) 網斑病

- ア 本病の発生が上位葉に拡大すると、登熟に影響し減収・品質低下を引き起こすことから、多発生が予想されるほ場では、防除を徹底する。
- イ オオムギの葉色が濃い過繁茂のほ場では、多発生する恐れがあるので、注意が必要である。
- ウ 病気が蔓延する前に薬剤防除を行う。防除薬剤は、チルト乳剤25(1,000倍、展着剤加用)である。
- エ 農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。